



糖尿病通信

— 36 —

糖尿病と上手にお付き合いするために

いろいろな糖尿病

糖尿病は1型、2型など4つの病型に分類されます。

1. 1型糖尿病

何らかの原因で、膵臓のβ細胞が壊れてしまい、インスリンを作ることが出来なくなっ
て起こる糖尿病です。β細胞が壊れる原因は自己免疫によるものが最も多く(1A型)、血液中に膵臓に対する自己抗体が検出されます。その多くが20歳以下の小児期に発症しますが、成人になってからの発症もまれではありません。治療のためにどうしてもインスリン注射を必要とします。血糖が激しく上下しやすく、食事の内容、運動量などによりきめ細かにインスリン量を調節します。1型の中で原因不明のものは1B型と分類されています。



2. 特殊な1型糖尿病

緩徐進行1型糖尿病: 徐々に進行して数年でインスリンを必要とするようになる1型糖尿病です。当初は内服薬でコントロールできますが、早めにインスリンを開始し、膵臓の機能を保つことが大切です。

劇症1型糖尿病: 風邪症状のあと、突然重篤な糖尿病が発症します。膵β細胞は急速に破壊され、1週間以

内にインスリン欠乏状態となり、著明な高血糖やケトアシドーシスとなって、意識障害を来たします。

直ちにインスリン治療を始めなければなりません。

3. 2型糖尿病

成人で発症する糖尿病のほとんどがこの型です。インスリンの分泌不足や、インスリン抵抗性による作用不足で起こります。日本人はもともとインスリンを分泌する力が弱いのですが、インスリンにたいする感受性がよい間は、それでも大丈夫です。しかし、肥満や運動不足、加齢などでインスリン抵抗性が強くなると、作用不足となり、糖尿病が発症します。現在の生活習慣が、その人の膵臓の能力と合わないのです。食生活を見直し、体重を減らし、体をよく動かして、インスリン感受性を取り戻しましょう。主に内服薬で治療しますが、インスリン分泌不足が進行すれば、早めにインスリン注射を始め、働きすぎの膵臓を援助し、守ることが治療のコツです。



4. その他特定の型の糖尿病

遺伝子異常によるもの(3A)、ホルモンの異常によるもの、膵臓、肝臓などの疾患によるもの、薬の副作用によるものなど(3B)があります。

5. 妊娠糖尿病

妊娠により発症もしくは発見された糖尿病です。元気な赤ちゃんを産むために、血糖をより低く、厳しくコントロールしなくてはなりません。

それぞれの病型により治療法は異なります。しかし、食事や運動、その他の生活習慣に気を配っていくことは、どの病型でも必要なことです。 内科 柳澤

糖尿病のケア



低血糖のケア **グルカゴン注射**

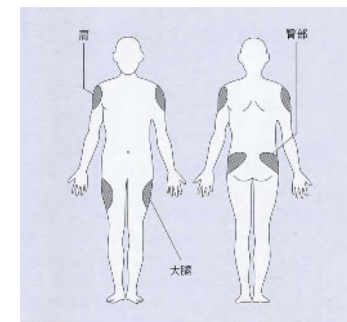
意識障害や昏睡などの重症低血糖で糖質の摂取が困難な場合には、急いで病院に行く必要があります。病院に到着するまでの緊急処置としてグルカゴンの筋肉注射があります。

グルカゴンとは膵臓のα細胞から分泌されるペプチドホルモンで、速やかにブドウ糖を肝臓から放出させる作用があり、重篤な低血糖の救急処置として用いられます。注射後10分以内に症状の改善が期待できますが、作用は一時的で60~90分後にはリバウンド作用によって血糖値が低下する可能性があるため、意識障害が改善したらすぐに糖質を補いましょう。



グルカゴン注射の方法

グルカゴン製剤を溶解液で溶解させてから、肩・大腿・臀部などへ筋肉注射を行います。



患者さんは自分で注射を打つことができない為、ご家族の方が十分な対処法を理解しておきましょう。

日頃から低血糖を疑わせる何らかの症状があれば、直ちに血糖自己測定を行い確認しておきましょう。 看護師 小笠原